

地域・老年看護学講座 榊原文講師 藤田麻理子助教が、優れた教育実践に顕彰される「島根大学優良教育実践表彰」を受賞しました。受賞を受けたのは、4年生の必修専門科目である地域看護学実習Ⅱ（産業看護実習）における教育実践です。

平成29年8月9日に公開型のプレゼンテーションによる審査会があり、“見て・感じ・考え・実践する”「産業看護実習」と題して発表を行いました（内容は以下のとおり）。

9月22日に公開表彰式が行われました。総評では、本教育実践に対し、「対象者の立場に立って考えながら、実践力の向上が図られている」「実習地と協働しながら発展性のある取り組みになっている」と評価を受けました。

今後も、学生の実習評価に基づく改善を図りながら、実習地と協働して学生の主体性を引き出す実習を行っていきます。



“見て・感じ・考え・実践する”「産業看護実習」

島根県内の6事業所（島根原子力発電所、中国電力島根支社、日本通運松江支店、島根富士通、出雲村田製作所、イワミ村田製作所）を実習地とし、学生達が五感をつかって“見て・感じ”、看護の対象となる労働者の立場にたって“考え”、“実践する”力が養われるように工夫しています。具体的には、職場巡視によって労働条件や労働環境を捉え、従業員へのインタビューや保護具の着用、作業体験をとおして労働者の立場にたって健康課題を考えます。そして、健康課題に対して、従業員への健康教育や健康づくり啓発リーフレットの作成、生活習慣病改善のための保健指導を行い、実践力の向上を図っています。

本科目は、実習地との協働を重視しており、実習前後に実習指導者との会議を行い、実習上の課題に対する検討、指導の工夫について共有化を図っています。また、実習後の学生アンケートの実施や、実習評価 Web の利用により、学生の声や実習達成度を基にして、より充実した実習へと改善を図っています。